

3 単元の指導と評価計画例

＜事例1＞ 「A 話すこと・聞くこと」
 「身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと」をねらった事例
 第2学年「しつもんをしあって、くわしく考えよう」指導要領との関わり：〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア・ウ

(1) 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項

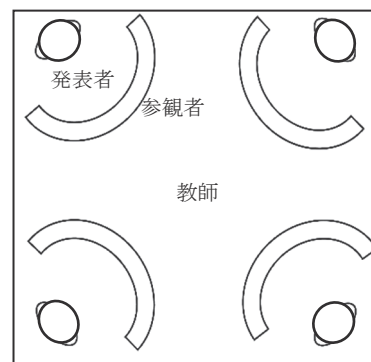
本単元の導入では、児童の日常生活から想像を広げ、あったらいいなと思うものを考えさせたり、考えたものを発表することを児童に伝えたりすることで、学習意欲が高まるように配慮した。その際、スピーチをする相手と同じクラスの友達に設定することで、相手意識をもたせるように工夫した。また、発表する内容を決めたり、どのように発表するかを考えたりする際には、ペアやグループで協力して学習するという見通しをもたせるようにした。単元の中盤では、発表原稿を書いたり発表を聞き合ったりする学習過程を必要に応じて繰り返すなど、柔軟な学習活動を設定し、児童の思考がより深まっていくように工夫した。単元の終末では、学んだことを他教科等や日常生活にどのように生かすことができるか、振り返りの活動を通して考えられるようにした。

(2) 学習評価に当たっての工夫、配慮事項

「話すこと・聞くこと」の学習評価については、①重点を絞って評価すること、②ICT機器を活用し、記録をとりながら評価すること、③複数の方法で確実に評価すること、の三つの工夫を取り入れた。

①については、「話すこと・聞くこと」の指導事項の中でも「話すこと」に焦点を当て、指導事項〔A(1)アとウ〕を重点的に指導、評価するようにした。②については、話題の設定や内容の検討の評価を児童のノートの記録から行い、表現に関わる部分の評価は、映像の記録から行うようにした。その際、タブレット等を活用し、ペアで映像を撮り合うなどして、その映像を評価の材料とすることができるようにした。

③については、教師を中心に、いくつか（例では4グループ）のグループに分けて発表者の周りに児童が集まり、同時に発表を行う場を設定することで、映像記録以外でも個々を見取りながら時間内に評価することができるようにした。



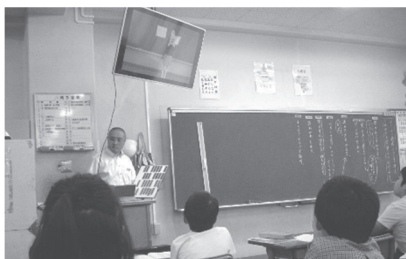

【③の場の例】

(3) 指導と評価計画の実例

- 1 単元名・教材名 しつもんをしあって、くわしく考えよう
 「あったらいいな、こんなもの」 【第2学年】7月実施
- 2 児童の実態と本単元の意図 <省略>
- 3 単元の目標
 - (1) 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れることができる。 〈知識及び技能〉(1)キ
 - (2) 身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉A(1)ア
 - (3) 伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫することができる。 〈思考力、判断力、表現力等〉A(1)ウ
 - (4) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉
- 4 本単元における言語活動
 あったらいいなと思うものを考え、説明する。（関連：言語活動例ア）
- 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れている。 (1)キ	①「話すこと・聞くこと」において、身近なことや経験したことなどから話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。(A(1)ア) ②「話すこと・聞くこと」において、伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫している。(A(1)ウ)	①進んで、伝え合うために必要な事柄を選び、学習の見通しをもって説明しようとしている。

6 指導と評価の計画（全8時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<p>○言語活動について知り、あったらいいなと思う道具の絵を描きながら、名前を考える。</p> 	<p>○話題の決め方</p> <p>ここでは、児童の学習状況を把握し指導改善につなげる。観点別学習状況の評価は実現状況を把握できる段階で行い、本時では行わない。</p> <p>対話的な活動を通して、児童の思考が変容したかどうかを見取るため、【思考・判断・表現】①と②を繰り返して評価するよう工夫している。</p>	<p>○説明しているモデルを示し、見通しをもてるようにする。 (モデルの例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師によるスピーチ ・上級生の動画(左写真)等 <p>○自分が困っていることや、もっとよくなったらいいなと思うことを想起できるようにする。</p> <p>○解決することをしぼり、想像を広げやすくする。(例:解決する問題は一つ、自分の生活に関係のあること等)</p>
2	<p>○あったらいいなと思う道具について伝えるために、必要な事柄と、その順序を考える。 (事柄の例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道具の名前 ・使い方 ・考えた理由 ・大きさ ・形 等 	<p>○伝え合うために必要な事柄とその順序</p> <p>学びがより深まるように、ペア・グループによる質問や聞き合いなど、児童主体の学び合いの場を取り入れるように工夫している。また、指導の意図に応じて学習形態を変えるよう工夫している。</p>	<p>【思考・判断・表現①】 ノート ・必要な事柄や順序の確認</p>
3	<p>○質問をし合って、発表について詳しく考える。 「どうして、その道具があったらいいなと思ったの？」 「その道具を使うと、どんなことができるの？」</p>	<p>○伝え合うために必要な事柄とその順序</p> <p>○聞いたことに対する質問の仕方</p> <p>P16 指導計画作成の留意事項(2)</p>	<p>【思考・判断・表現①】 ペアによる話し合い、ノート ・必要な事柄や順序の記述の確認・分析</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 ノート ・振り返りの記述内容の確認</p>
4 ・ 5 ・ 6	<p>○発表原稿を書いたり、発表を聞き合ったりして、よりよい発表について考える。</p> 	<p>○伝え合うために必要な事柄とその順序</p> <p>○相手に応じた声の大きさや速さ</p> <p>○丁寧な言葉の使い方</p> <p>P16 指導計画作成の留意事項(8)</p>	<p>【知識・技能①】 発表(映像記録) ・発表練習の様子(丁寧な言葉など)の確認・分析</p> <p>【思考・判断・表現②】 発表(映像記録)、観察 ・発表練習の様子(声の大きさ・速さ)の確認・分析</p>
7 ・ 8	<p>○複数のグループに分かれて発表会を行い、感想を伝え合う。</p> <p>○単元の学びを振り返り、今後への生かし方を考える。</p>	<p>○相手に応じた声の大きさや速さ</p> <p>○発表に対する感想の伝え方</p> <p>○振り返りの仕方</p>	<p>【思考・判断・表現②】 発表(映像記録)、観察 ・発表練習の様子(声の大きさ・速さ)の確認・分析</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 ノート ・振り返りの記述内容の確認、単元目標の相互の視点からの分析</p>

(4) 評価に基づく改善のポイント

評価を学習改善・指導改善につなげていくためには、教師による評価と併せて、児童による相互評価や自己評価を大切にする必要がある。特に第4時から第6時では、原稿を考えることと発表練習をすることを繰り返しながら、よりよい発表について考えるため、①教師による評価に基づいた適切な支援②相互評価による意欲の向上③自己評価による自身の発表の捉え直しの3点が重要である。

<事例2> 「B 書くこと」

「目的や意図に応じて、書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること」をねらった事例

第6学年「学校のよさを伝えるパンフレットを作ろう」指導要領との関わり：〔思考力、判断力、表現力等〕 B(1)ア・ウ

(1) 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項

本単元では、実際にパンフレットを手に取り、そのよさを見つける活動を通して学習意欲を高めるようにした。道徳「よりよい学校生活、集団生活の充実」と関連させ、単元のゴールを「学校のよさを伝えるパンフレットを作ろう」とした。そして、「就学時健康診断の日に」「新一年生の保護者に」「学校のことを知ってもらうために」と具体的な相手と目的を意識して、児童が主体的に学習に臨めるようにした。また、総合的な学習の時間に取り組んでいる「修学旅行」についてのまとめをパンフレット形式で行い、国語で習得した「書くこと」等の力を活用して総合的な学習の時間での探究活動へと発展させていけるように、カリキュラム・マネジメントの視点から意図的に年間指導計画に位置付けた。

本単元の学習活動は、中学校において図表を用いた説明、記録の文章や行事等の案内や報告をする文章等、日常生活の中から題材を決め、集めた材料から伝えるべきことを整理して書く活動へとつながる。

(2) 学習評価に当たっての工夫、配慮事項

「書くこと」の指導事項には、【題材の設定、情報の収集、内容の検討】【構成の検討】【考えの形成、記述】【推敲】【共有】の五つの過程があるが、本単元で身に付けたい力を明確にして、重点的に指導する内容を「思考・判断・表現」の評価規準に設定した。

(3) 指導と評価計画の実際

1 単元名・教材名 学校のよさを伝えるパンフレットを作ろう
「〇〇小学校のひみつ教えます」 【第6学年】6月実施

2 児童の実態と本単元の意図（略）

3 単元の目標

(1) 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことができる。 〈知識及び技能〉(2)イ

(2) 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉 B(1)ア

(3) 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉 B(1)ウ

(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

図表や写真などを用いてパンフレットを書く。（関連：言語活動例ア）

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使っている。 (2)イ	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①積極的に、目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って説明する文章を書こうとしている。

6 指導と評価の計画 (全12時間扱い)

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○5年生までの学習を振り返り、既習事項を確認する。 ○単元の学習課題を確認し、提示された単元のゴールから、言語活動のイメージをもつ。 ○パンフレットを作るために必要なことを考え、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレット全体の構成や表現の効果 <p>パンフレットを作るために学習者が学びたいことを十分に話し合い、学習者の問題解決が中心となるように課題を設定しながら、学習計画を立てるように工夫している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○既習の「目的や意図に応じて文章全体の構成や表現の効果を考えること」について想起させ、相手と目的を意識したパンフレット作りにつなげていくようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットの特徴を調べ、構想を練る。 ○学校の特徴や誇れることについて話し合う。 ○取材計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○パンフレットの特徴 ○題材の決定 <p>P16 指導計画作成の留意事項(5)</p>	<p>「積極的に」となっている姿を「必要な情報を多く集めようとしている姿」と捉え直して評価するようにしている。</p>
3 4 5	<ul style="list-style-type: none"> ○取材の準備をする。 ○取材計画を基に、取材する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取材の仕方 	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 取材ノート・取材の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って、必要な情報を積極的に集めようとしているか確認する。
6 7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> ○集めた情報や材料を整理し、構成を考える。 ○下書きをする。 ○下書きを読み合い、互いに助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の構成と割り付け ○情報の取捨選択 ○詳述や略述の工夫 ○図や写真の生かし方 ○推敲の仕方 <p>同じテーマでグループを組み、情報交換しながら進められるように、協働的な学び合いの場を大切に、粘り強く取り組めるよう工夫している。</p>	<p>【思考・判断・表現①】 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を取捨選択したり、伝える優先順位を考えて並び変えたりしながら、構成や割り付けをしているか確認する。 <p>【知識・技能①】 下書き原稿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序立てて系統化したり、図示したりして情報を整理できているか確認する。 <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 下書き原稿・交流の様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者との交流を通して、伝えたいことが明確かどうかを見直そうとしているか確認する。
10 11	<ul style="list-style-type: none"> ○清書して仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○清書の仕方 	<p>【思考・判断・表現②】 パンフレット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文末表現に注意して、事実と感想、意見とを明確に区別して書いているか確認する。
12	<ul style="list-style-type: none"> ○違うテーマを選んだ友達とパンフレットを読み合い、学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流の仕方 ○交流の視点 	<ul style="list-style-type: none"> ○交流の視点の共有化を図り、事後にも生かせるようにする。
事後①	<ul style="list-style-type: none"> ○就学時健康診断の日に、新1年生の保護者に読んでもらい、感想をもらう。 ○公民館で展示し、地域の方にも読んでもらう。 	<p>P16 指導計画作成の留意事項(4)</p>	
事後②	<ul style="list-style-type: none"> ○総合的な学習の時間に調べた修学旅行の見学地についてパンフレットにまとめ、5年生に感想をもらう。 	<p>P16 指導計画作成の留意事項(3)</p>	

(4) 評価に基づく改善のポイント

「考える過程」が見えるノート作りを指導し、授業のねらいに正対した学習内容の振り返りを行っていく。特に下書きの場面では、取材ノートやワークシートの記述から児童の学習内容の理解や取り組む姿勢などを的確に見取り、個に応じた指導・支援につなげていくようにした。

第5 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

本時の学習指導に当たっては、本単元で育成を目指す資質・能力が確実に児童一人一人に身に付くよう、単元計画と連動性をもった一単位時間を構想し、評価規準を作成する。

※【単元の評価規準の作成のポイント】の「Step 1～4」（P22 参照）について留意した上で、本時「Step 5」を設定する。

本時の学習指導（ / 時）

(1) 目標

- 本時の目標は、「単元の目標」を基にして設定する。
- 当該指導事項の確認だけでなく、上下学年指導事項の系統性も把握する。

(2) 評価規準

- 評価規準は、本時の目標との整合性を図り、一つか二つに精選するとよい。
- 本時に確実に見取る評価規準を示す。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
<p>本時の「児童が行う活動」について順を追って記述する。</p> <p>1 本時の課題を確認する。</p>	<p>〔指導事項〕に係る事項を記入する。 ※本時に評価しなくても主な指導事項は記入するとよい。</p>	<p>指導事項を確実に指導するための留意点、評価、「努力を要する」状況への手立てなどを具体的に記入する。</p>	3
<p>2 魅力だと思うところに付箋を貼りながら物語文を読む。</p> <p>3 カードにまとめる。</p> <p>4 ペア、グループで交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><期待される児童の反応></p> <p>期待される児童の発言や姿などを具体的に想定して記入する。</p> </div>	<p>○登場人物の相互関係の捉え方</p> <p>「知識・技能」の評価 ・ペーパーテストやノート、ワークシートで実際に知識や技能を用いる場面を設けるなどして評価する。</p> <p>「思考・判断・表現」の評価 ・ノートやワークシートでの論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、ポートフォリオの活用などにより評価する。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」の評価 ・「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえ、ノートや発言、行動観察、自己評価・相互評価の状況等を、考慮する材料の一つに用いて、評価する。</p>	<p>文末を「～だろうか」と問いかける形の課題も考えられる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Step 5: 評価の実際と手立て 実際の学習活動を踏まえて、「おおむね満足できる」状況（B）の例を具体的に想起して記入する。</p> <p>↓</p> <p>評価規準 【思考・判断・表現①】例【思・判・表】 ワークシート・付箋 評価方法を記入する。</p> <p>・作品の魅力だと思ったことを人物像や物語の全体像、表現の効果等の視点から捉え、理由とともに書いている児童をBとする。 重点を置く活動に十分な時間を取り、確実に見取るようにする。</p> <p><「努力を要する」状況（C）への手立て> ・好きな登場人物や場面を一緒に確認し、理由を考えるように促す。</p> </div>	3
<p>5 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「まとめ」と「振り返り」を分け、意図的・計画的に時間を設定する。 ※「振り返り」は、計画的に数時間分をまとめて行う場合も考えられる。</p> </div>	<p>6 学習の振り返りをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><期待される児童の振り返り></p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Step 5: 評価の実際と手立て 「努力を要する」状況（C）への手立てを具体的に示す。 ※（解P159～）等も併せて参照する。</p> </div>	3

2 学習指導案の事例

<事例1> 「C 読むこと」(文学的な文章)

「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」及び「読書活動の充実」をねらった事例

第3学年「物語のおもしろいところをしょうかいしよう」指導要領との関わり：[思考力、判断力、表現力等] C(1)イ・エ

(1) 学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項

教科書教材「モチモチの木」と同じ作者の書いた物語を用意し、児童が手軽に読める環境を整え、「登場人物の気持ちの変化や性格について想像しながら読む」力を活用できる場を設定した。

また、国語で学んだことが日常の読書で活用できることを実感させることを意図して単元の指導計画を立てた。

本時においては、会話や行動などから登場人物の気持ちや性格、気持ちの変化を読み取った。前の場面と比較しながら、登場人物の性格について話し合う活動を取り入れ、考えを深められるよう工夫した。

(2) 評価に当たっての工夫、配慮事項

評価場面は話し合い後の自分の考えをまとめる場面とし、本時の学習を通して児童が登場人物の気持ちや性格について、行動と思いを場面の移り変わり等と結び付けてまとめることができたかを評価する。単元の最後に、各時間で読み取ってまとめた登場人物の気持ちの変化や性格を「おすすぬめ図書カード」に書くこととした。評価の積み重ねがゴールにつながることで児童の意欲が高まるとともに、児童の変容等を見取ることができるように工夫した。

(3) 学習指導・評価の実際

1 単元名・教材名 物語のおもしろいところをしょうかいしよう「モチモチの木」

【第3学年】11月実施

2 児童の実態と本単元の意図(略)

3 単元の目標

(1) 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。

〈知識及び技能〉(1)オ

(2) 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)イ

(3) 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)エ

(4) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

4 単元で取り上げる言語活動

物語を読み、内容を説明したり、考えたことなどを紹介し合ったりする。(関連:言語活動例イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。(1)オ	①「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ②「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ)	①進んで、登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に考え、今までの学習を生かして内容を説明したり、考えたことなどを紹介したりしようとしている。

6 指導と評価の計画（全13時間扱い）

時	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価
1	<ul style="list-style-type: none"> ○今までの学習を振り返るとともに、単元を見直し、ゴールを確認する。 ○全文を読み、感想や話し合いたいことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おすすめ図書カードの書き方 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">身に付ける資質・能力を確認する。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が意欲をもって読書を進められるように、同じ作者（斎藤隆介）の本を教室内に常設する。
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6	<ul style="list-style-type: none"> ○あらすじを捉えながら、登場人物の性格を表す言葉について話し合う。 ○会話や行動を通して、豆太の気持ちの移り変わりを考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">豆太の心情の変化を前後の場面と比較しながら読み取れるように、教室掲示やワークシート、ノート指導を工夫した。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述を基に想像しながら読むこと ○会話や行動・様子を表す言葉 ○登場人物の気持ちの変化と場面の移り変わり 	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述を基に想像されることを出し合い、考えを深められるように話し合いの場面を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【知識・技能①】 ワークシート・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動や気持ちを表す語句を文章中から見付けているか確認する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【思考・判断・表現①】 ワークシート・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の行動と思いを結び付けて考えているか確認する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【思考・判断・表現②】 ワークシート・ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちの変化と場面の移り変わりを結び付けて考えているか確認する。 </div>
7 ・ 8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> ○モチモチの木の「おすすめ図書カード」を書き、読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面の移り変わり ○登場人物の性格を表す言葉 	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までに捉えた、場面の移り変わりや登場人物の性格を基に図書カードを書くように指導する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【知識・技能①】 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を使って登場人物やあらすじを紹介しているか確認する。 </div>
10	<ul style="list-style-type: none"> ○同じ作者（斎藤隆介）の他の作品から自分の気に入った本を見付けて読む。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">P16 指導計画作成の留意事項（7）</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○叙述を基に想像しながら読むこと ○会話や行動・様子を表す言葉 ○登場人物の気持ちの変化や性格と場面の移り変わり 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【主体的に学習に取り組む態度①】 ノート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書カードを書くのに必要な事柄を考え、メモを取りながら読もうとしているか確認する。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 5px;">モチモチの木の図書カードと比較し、児童の変容も評価するようにした。</div>
11 ・ 12 ・ 13	<ul style="list-style-type: none"> ○前時で選んだ自分のお気に入りの本について「おすすめ図書カード」を書く。 ○友達の書いた「おすすめ図書カード」を参考に、紹介された本を読み、「一言感想」を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○登場人物の気持ちの変化と場面の移り変わり ○登場人物の性格を表す言葉 ○感じ方の違いに気付くこと 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>【知識・技能①】 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句を使って登場人物やあらすじを紹介しているか確認する。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> <p>【思考・判断・表現②】 図書カード・一言感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の気持ちの変化と場面の移り変わりに着目して書いているか確認する。 </div>

7 本時の学習指導（5/13時）

(1) 目標

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすることができる。
〈知識及び技能〉(1)オ
- 登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。
〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)イ

(2) 評価規準

- 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにしている。【知識・技能】
- 「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。

【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	欄
1 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。 真夜中に「なきなき走った」豆太のすがたを想像して、豆太はどんな子か考えよう。		○前場面の「はじめっからあきらめて布団にもぐりこんだ」豆太の様子を想起させ、本時の様子と比較しやすいようにする。	3
2 場面から、豆太の気持ちや性格が分かる部分を見つけてサイドラインを引く。 P 16 指導計画作成の留意事項 (2)	○気持ちや性格を表す言葉 (様子・行動) <押さえない表現の例> ・「じさまあっ！」 ・こわくて、びっくらはして、豆太はじさまにとびついた。 ・「医者様をよばなくっちゃ！」 ・子犬みたいに体を丸めて、表戸を体でふっとばして走りだした。ねまきのまんま。はだしで。 ・豆太はなきなき走った。	○豆太の気持ちや性格を捉えるのに適切な語句に着目させる。 評価場面1 【知識・技能①】 <評価方法> ワークシート・ノート ・豆太の気持ちや性格を表す言葉を見付けている児童をBとする。 <「努力を要する」状況(C)への手立て> ・豆太の話す言葉、様子や行動を表す言葉を見付けることから、気持ちや性格を考えるように助言する。	7
3 サイドラインを引いた叙述を基に、豆太の気持ちを想像しながら話し合う。 ・個人→ペア→全体 豆太の気持ちを想像し、考えを深めるために、視点をもってペアで交流できるよう工夫している。	○叙述を基に想像しながら読むこと <期待される児童の反応> ・豆太は何がこわかったのか。 →うなっているじさまの声。夜の道。じさまが死にまうこと。 ・外に飛び出した豆太の思い。 →子犬みたいに…こわい。弱虫。 →表戸をふっとばす…勇気をふりしぼって。 →なきなき走る…不安があるけれどじさまのために。	○特に、「豆太は何がこわかったのか」「外に飛び出した豆太の思い」について、叙述を基に想像させる。 ○はじめに自分の考えをノートに書いてから、ペアで話し合い、全体の話合いで深める。 評価場面2 【思考・判断・表現①】 <評価方法> ノート ・豆太の行動と思いを結びつけて性格を捉えている児童をBとする。 <「努力を要する」状況(C)への手立て> ・話し合いの内容を板書した言葉を使ってまとめるよう助言する。	20
4 場面から分かった豆太の性格を比較・整理し、本時のまとめをする。 教室掲示を利用し、本時と前時までの読み取りを比較して、物語全体の流れや変化も読み取れるように工夫している。	○登場人物の性格の捉え方 ○気持ちの変化と場面の移り変わり <予想される児童のまとめ> ・豆太は、痛さやこわさをがまんして、じさまのために走る勇気がある。 ・豆太は、やさしい心をもってじさまを大切に思っている。なぜなら……。	○どのような読み方ができるようになったか(人物の行動や様子から、気持ちや性格を捉えることができたか)を振り返らせる。	10
5 学習の振り返りをする。	<期待される児童の振り返り> ・豆太の行動や様子、言葉に注目して読むと、豆太の気持ちや性格がよく分かりました。		5

P 16 指導計画作成の留意事項 (1)

(4) 評価に基づく改善のポイント

掲示物を用いて、本時までの学習を1時間ごとに整理するなど、これまでの学習の流れや具体的な既習事項をいつでも児童が振り返ることができるような学習環境の工夫を継続して行う。また、学校図書館を活用した読書活動や、本単元で身に付けた力を生かした言語活動が意図的・計画的にできるように工夫する。

＜事例2＞ 「C 読むこと」(説明的な文章)

「原因と結果など情報と情報との関係について理解すること」及び「文章を読んで理解したことに基
づいて、自分の考えをまとめること」をねらった事例

第6学年「筆者の意図をとらえ、自分の考えをまとめよう」指導要領との関わり：〔知識及び技能〕(2)ア〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ウ・オ
【全国学力・学習状況調査結果等の課題「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことなど、自分の考えを形成する」と関連】

(1) 本時の学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項

今回の学習指導要領改訂において、「情報の扱い方に関する事項」が新設された。文章に含まれる情報を取り出して整理したり、その関係を捉えたりすることが、文章を正確に理解することにつながるため、このような情報の扱い方に関する「知識及び技能」が国語科において育成すべき資質・能力の一つとして取り上げられた。本単元で扱う「笑うから楽しい」と「時計の時間と心の時間」は、どちらも双括型の論説文である。筆者は、複数の情報を示したり読者の経験を想起させたりしながら、読者が理解し納得できるように工夫している。

本時においては、筆者の考えに共感したり納得したりできるかを話合いの中心とすることで、筆者の意図について考えるようにした。その中で、効果的な読み方（自分の経験に照らし合わせて読む、図表と結び付けて読む等）をすることによって、情報と情報の関係を捉え、文章の内容を深く理解して、自分の考えをもてるように工夫した。

(2) 評価に当たっての工夫、配慮事項

本時に当たっては、段落ごとに共感したり納得したりできるかどうかを中心に、根拠を示しながら自分の考えを書かせることで評価をした。その際、文章の内容を図表などと結び付けるなどして理解させようとしたり、事例を用いて説得力を高めようとしたりしている筆者の意図を捉えながら自分の考えを書くことができているかを見取れるように工夫した。

(3) 学習指導・評価の実際

1 単元名・教材名 筆者の意図をとらえ、自分の考えをまとめよう

「笑うから楽しい」「時計の時間と心の時間」 【第6学年】 5月実施

2 児童の実態と本単元の意図 (略)

3 単元の目標

(1) 原因と結果など情報と情報との関係について理解することができる。

〈知識及び技能〉(2)ア

(2) 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりすることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)ウ

(3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)オ

(4) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

4 単元で取り上げる言語活動

論説文を読んで、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、分かったことや考えたことを文章にまとめる。(関連：言語活動例ア)

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア)	①「読むこと」において、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり、論の進め方について考えたりしている。 (C(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 (C(1)オ)	①粘り強く情報と情報との関係や論の進め方について考え、学習の見通しをもって、分かったことや考えたことを文章にまとめようとしている。

6 指導と評価の計画 (全7時間扱い) (略)

7 本時の学習指導 (本時4/7時)

(1) 目標

○ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉C(1)オ

(2) 評価規準

- 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時
1 前時の学習を振り返り本時の課題を確認する。		○ここまでの筆者の論の展開を、掲示物等を使って振り返り、整理した上で、本時の読み取りにつなげる。	7
<p>筆者の考えに納得できるかどうかを中心に、自分の考えをまとめよう。</p>		P16 指導計画作成の留意事項(2)	
2 筆者の考えに納得できるかどうかについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○効果的な読み方(情報と情報との関係の捉え方) ○筆者の意図の捉え方 	<ul style="list-style-type: none"> ○「納得できる、納得できない」のどちらかに挙手をさせ、立場を明確にする。 ○「体の動きが時間帯によって悪くなる」といった、児童が共感できる事例等から筆者の意図をとらえ、納得できたかどうかを、根拠を示しながら話し合わせる。 ○理解が不十分な児童には、事例として取り上げられている、実験の内容について実際に試したり、文とグラフをつなげて読み取りすることで、実験の方法と結果についての理解を促す。 	20
<p><期待される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例に書いているように、私も朝起きたばかりのときは、確かに体の動きが悪い気がするから、納得できる。 ・実際に試してみないと分からない部分があるから、納得できるとまでは言えない。 			
3 自分の考えを書く。	○自分の考えのまとめ方	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合いを基に、筆者の考えに納得できたかどうかを明確にして、自分の考えを書かせる。 ○書いた文章を発表させ、全体で共有する。 	10
<p><期待される児童の反応></p> <p>私は、筆者の考えに納得できます。</p> <p>なぜなら、私も筆者の実験の結果と同じことを経験したことがあるからです。</p> <p>朝、身支度をしているときは、時間があっという間に過ぎてしまいます。例えば……。</p>		<p>【思・判・表②】</p> <p><評価方法></p> <p>ノートの考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意図を捉え、自分の体験と結び付けて納得できるかどうか書いている児童を、B評価とする。 <p><「努力を要する」状況(C)への手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分に筆者と似た経験があるか考えさせるとともに、経験がない児童には友達の記事を参考にするように助言する。 	
<p>第一段落は結論(立場)、第二段落は根拠(理由)など順序や段落数、文字数などの条件を提示することも考えられる。</p>			
4 本時のまとめをする。		○数名の児童に自分の考えを発表させ、全体のまとめをする。	3
<p><学習のポイント></p> <ol style="list-style-type: none"> ①自分の経験に照らし合わせたり、本文と図表とを結び付けたりして読む。 ②事例の取り上げ方に着目して、筆者の意図をとらえる。 ③納得できるかどうかを中心に、自分の考えをまとめる。 			
5 振り返りをする。		○本時の学習を通して、筆者の意図が捉えられたか、考えのまとめ方が分かったかなどを振り返らせる。	5
<p><期待される児童の振り返り></p> <p>グラフを見ながら文を読んだら、筆者の意図がよく分かりました。また、自分にも経験があることだと、筆者の言うことがよく分かりました。これからはこのような読み方をしていきたいと思います。</p>			

(4) 評価に基づく改善のポイント

本時の内容の理解が不十分だった児童には、次時も、効果的な読み方や筆者の意図の捉え方について具体的に取り上げて指導する。また、考えをまとめて書くことが難しかった児童には、次時に模範となる文章を示すなど、書き方を中心に授業を構成することも考えられる。さらに、県学力・学習状況調査「復習シート」を活用して関連する内容を復習したり、一人一人の課題に合わせて家庭学習等で自主的に取り組むようにしたりすることで学習の定着を図る。

<事例3> 「長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと」をねらった事例
第1学年「あいうえおであそぼう」指導要領との関わり：〔知識及び技能〕(1)オ・(3)イ

(1) 本時の学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項

本時は、児童が平仮名を読み書きすることができるようになったこの時期に、「あいうえお」を使った遊び歌や五十音表を手掛かりにした言葉遊びを行うことで、言葉そのものがもつ豊かさに気付き、言葉に親しみながら語彙を増やすことができるように設定した。五十音表を縦に読んだり横に読んだり一音ずつ伸ばしたりしながら読む活動を取り入れることで、児童が五十音表の特徴や言葉のもつ豊かさに気付くことができるよう工夫した。

本単元で指導する「長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと」は、今回の学習指導要領改訂において新設された指導事項である。

前時までは、教材文を読むとともに幼児期に経験している「かぞえうた」や「早口言葉」、地域に伝わる言葉遊びなどに触れることで、言葉のリズムを楽しむ活動を行った。また、自分や学級の「あいうえおのうた」を作ったり、発表し合ったりすることで、言葉を用いて発想を広げる活動を行った。これらの活動を通して、言葉のもつよさを実感できるように工夫した。

(2) 評価に当たっての工夫、配慮事項

本時の評価に当たっては、前時までの「あいうえおのうた」やしりとりなどの言葉遊びを通して、言葉とその特徴が表れている五十音表をつなげるといった、実際に知識や技能を用いる場面を意図的に設けて評価するように工夫した。また、一人で言葉集めをすることが難しい児童でも語彙を広げることができるよう、ペアやグループで話し合ったり教え合ったりする活動を取り入れるなどの工夫もした。

(3) 学習指導・評価の実際

1 単元名・教材名 あいうえおであそぼう 【第1学年】6月実施

2 児童の実態と本単元の意図（略）

3 単元の目標

(1) 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。

〈知識及び技能〉(1)オ

(2) 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。

〈知識及び技能〉(3)イ

(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

4 本単元における言語活動

尋ねたり応答したりするなどして、少人数で話し合う活動

（関連：A話すこと・聞くこと 言語活動例イ）

5 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
①身近なことを表す語句の量を増し、話の中で使うことで、語彙を豊かにしている。(1)オ	①進んで、身近なことを表す語句の量を増し、学習課題に沿って尋ねたり応答したりしようとしている。
②長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。(3)イ	

6 指導と評価の計画（全3時間扱い）（略）

7 本時の学習指導（本時3／3時）

(1) 目標

○ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くことができる。

〈知識及び技能〉(3)イ

(2) 評価規準

○ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付いている。

【知識・技能】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時の課題を確認する。		○「あいうえおのひょう」を黒板に掲示し、学習内容をつかませる。	2
「あいうえおのひょう」のひみつをみつけよう。		既習事項と本時をつなげ反復的、螺旋的な学習となるように工夫している。	
2 あいうえおの正しい口形を想起する。	○正しい口形による発音の仕方	○正しい口形で発音している子の写真を見せ、口元を真似しながら発音できるようにする。	3
3 五十音表を様々な読み方で読む。	○五十音表の様々な読み方	○縦や横に読む、短く切ったり長くのぼしたりして読むなど様々な方法で読めるようにする。 ○黒板に掲示した表を用いて、指で押さえながら一文字ずつ指し示して読むようにさせる。	10
P16 指導計画作成の留意事項(1)			
4 五十音表の秘密を見つける。	○五十音表の特徴の見つけ方	○「あかさたな…」 「いきしちに…」の部分がそれぞれ同じ色になっていることに着目させたり、声に出して読ませたりすることで、音の仲間に分かれていることに気付けるようにする。	10
〈期待される児童の反応〉 ・「あかさたな…」は、長くのぼすとみんな「あ」になる。			
5 五十音表を使い、言葉遊びをしながら言葉を見つける。	○条件に合った言葉集めの仕方 ○語彙の獲得の仕方	○文字数を制限したり、しりとりで次の言葉を考えたりするなど、様々な条件を用いることで楽しく言葉集めができるようにする。 ○ペアやグループで協力をして語彙を広げられるよう助言する。 ○見つけた言葉は声に出して確かめるようにする。	15
言葉遊びをする中で、確かめるポイントを具体化することで、他の評価規準と分けて確実に評価できるように工夫している。		<p>〈評価規準〉 【知識・技能②】 〈評価方法〉 教師による行動観察、発表</p> <p>・言葉遊びを通して、五十音表の特徴である「言葉を伸ばして読むと、『あいうえお』のどれかの音になる」ことや『あいうえおの表』は音の仲間で並んでいる」ことを確かめられている児童をB評価とする。</p> <p>〈「努力を要する」状況(C)への手立て〉 ・長く伸ばして読んだ時に、音がどのように変化するかに注意して考えるように助言する。</p>	
児童が声に出して実感できる手立てを示すことで、ねらいに沿った考察ができるように工夫している。			
6 本時のまとめをする。	ことばをのぼしてよむと、「あいうえお」のどれかのおとになる。「あいうえおのひょう」は、おとのなかまで、よこにならんでいる。		2
7 学習の振り返りをする。	〈期待される児童の振り返り〉 友達と言葉集めをしました。いろいろな言葉を考えたり、声に出して確かめたりして、秘密が見つけられてよかったです。	○言葉を用いて発想を広げたり、言葉を通して人と触れ合ったりすることで、言葉のもつよさが実感できたかを振り返る。	3

(4) 評価に基づく改善のポイント

言葉遊びなどを通して豊かにした語彙を用いて、身の回りのことを文章に書いて知らせたり、友達に話したりする場面を意図的に設定し活用できるようにする。また、日常生活や今後の学習に生かすことができる言葉は掲示するなどして、さらなる語彙の広がりや深まりにつなげる。さらに、学校図書館等を活用し、自ら言葉遊びの本などに触れられるように学習環境を整える。

<事例4> 「文字の組立てを理解し、字形を整えて書くこと」をねらった事例
 第4学年「文字の組立て方(左右)『林』」指導要領との関わり：〔知識及び技能〕(3)エ(ア)・(ウ)

- (1) 本時の学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項
 本時では、部首と他の部分の組立て方を理解することを重視して授業を行った。そこで、(3)我が国の言語文化に関する事項「ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること」との関連を図りながら指導する。学習したことや調べたことを生かすことのできる児童の話合いにより、「へん」と「つくり」の組立て方を理解したり、書き方を考えたりすることができるように工夫した。
 また、組立てについて話し合う前の試書と教材文字を比較することで、「林」の文字のもつ特徴や自分が書く文字の特徴に気付くことができるように工夫した。
 さらに、幅のとり方にポイントをおいた練習用紙を複数準備することで、自分の課題に合った練習をしながら「へん」と「つくり」の組立て方を理解し、形を整えて書けるように工夫した。
- (2) 評価に当たっての工夫、配慮事項
 試書と比較して良くなった点を見つけることで、自分の力の伸びを把握することができるように工夫した。振り返りでは、ノートや手紙などに字を書く際、学習した内容を「林」と同じ組立ての漢字や他の組立ての漢字に生かせることにも気付けるようにした。
- (3) 学習指導・評価の実際

- 1 単元名・教材名 文字の組立て方(左右)「林」 【第4学年】10月実施
 2 児童の実態と本単元の意図(略)
 3 単元の目標
 (1) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くことができる。 〈知識及び技能〉(3)エ(ア)
 (2) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くことができる。 〈知識及び技能〉(3)エ(ウ)
 (3) 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

- 4 本単元における言語活動
 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動
 (関連：B書くこと 言語活動例イ)

5 単元の評価規準

知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
①文字の組立て方を理解し、形を整えて書いている。 ((3)エ(ア))	①進んで文字の組立て方を確かめながら、学習課題に沿って、形を整えて書こうとしている。
②毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書いている。 ((3)エ(ウ))	

- 6 指導と評価の計画(全2時間扱い)(略)
 7 本時の学習指導(本時1/2時)
 (1) 目標
 ○ 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くことができる。 〈知識及び技能〉(3)エ(ア)
 (2) 評価規準
 ○ 文字の組立て方を理解し、形を整えて書いている。 【知識・技能】

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 本時の課題を確認する。	○漢字の構成 「へん」「つくり」	○「林」は左右の文字の組立て「へん」と「つくり」できていることに気付かせる。	3
<p>「林」の文字の形を整えて書くには、どのようなことに気を付ければよいだろうか。</p>		<p>P16 指導計画作成の留意事項(4)</p>	
2 「林」を試書する。	○「林」の書き順	○習字ボランティアによる示範を見て筆順を確認しながら空書をする。	5
3 試書と教材文字を比べて話し合う。		○教科書を見ないで試書する。 ○「木」は「きへん」になると、幅や点画の形がどう変わるか考えるように促す。 ここでは、特に気付きにくい「へん」と「つくり」の横幅の違いや大きさのバランスに気付かせるようにする。	7
<p>〈期待される児童の反応〉 「へん」と「つくり」では、横の幅がちがう。「へん」は狭くて全体の大きさが「つくり」より小さい。</p>		○児童の発表内容をまとめながら、「きへん」の横幅などについて確認していく。	5
4 「へん」と「つくり」の組立てについて確認する。	○文字の特徴の見つけ方 ・左右の幅 ・点画の形	<p>児童の発表を基に「へん」と「つくり」の「組立て方」について確認していくことで、主体的に学習に取り組む意欲を持たせるよう工夫している。</p>	
<p>きへんの書き方(「木」と比べて)</p> <p>①横画は右上がりになる。 ②1画目と2画目の交わる位置が変わる。 ③「右はらい」が「とめ」になる。 ④きへんの横幅を少し狭くする。</p>		<p>P16 指導計画作成の留意事項(1)</p>	
5 「へん」と「つくり」の幅のとり方に気を付けて練習する。 ＜練習用紙＞	○きへんの幅に気を付けた書き方	○幅のとり方にポイントをおいた練習用紙を準備し、個々の課題に合わせて活用できるようにする。	20
		<p>【知・技②】 練習用紙 ・へんとつくりの幅のとり方に気を付けて、形を整えて書いている児童を、B評価とする。 ＜「努力を要する」状況(C)への手立て＞ ・半紙に4対6の割合で折り目をつけ正しい幅で書けるようにする。</p>	
6 本時のまとめをする。	<p>「林」という文字は「へん」の横幅を「つくり」の幅よりも狭くして書くことで形が整う。</p>		2
7 振り返りをする。	○文字の比較による確かめ方	○試書と比べてよくなった点から、学習で身に付いたことや、今後に生かすことなどについて考えられるようにする。	3
<p>〈期待する児童の振り返り〉 総合的な学習の時間で手紙を書く時に、「へん」と「つくり」のある字は、特に気を付けて書きたい。他の漢字の組立てがどうなっているのか調べたい。</p>			

(4) 評価に基づく改善のポイント

本単元で学習した内容は「秋」「松」など左右から成る組立て方の文字を書く際に活用することができる。他の文字の組立てについても調べる機会を設定するなどして、さらに興味をもたせたり、学習した内容を硬筆にも生かして使えるようにしたりするように促していく。